

# JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association



海外宣教連絡協力会

広報 No.57号

## 期待されている日本の教会

JOMA 役員 酒井信也 (OM日本)

「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」使徒 1:8



国外の教会でメッセージの奉仕をする機会があると、決まってアピールすることがある。「SONY、トヨタ、ホンダ、スズキ…。世界中どこへ行っても、文字通り地の果てと思えるような所へ行っても、そこには日本の製品があり、日本の車が走っている。日本の観光客は今や世界をまたにかけ、秘境と言われる所まで日本人を見かける。まさに世界中へ日本は進出している。しかし、日本のクリスチャンを、世界中で見かけることはできるだろうか？お金のため、楽しみのためになら日本人は地の果てにまで出かけて行く。どうか、日本のクリスチャンたちが、福音のためにこそ地の果てにまで出かけて行くように、お祈りください…。」

日本の教会、クリスチャンが人口に対するその数の小ささゆえに、イナゴ症候群と言われて久しい。しかし本当に日本の教会は力が無いのだろうか？日本の持つ経済力と人材には、世界中の教会が期待している。OM日本はミャンマーで貧しい教会が運営しているいくつかの孤児院を支援しているが、三十人の子供がいる孤児院の一ヶ月の食費は2万円だという。それでもお金が無く、ある月は子供たちが三日間も何も食べることができなかったという孤児院を訪ねた。二千元が無いために三十人の子供が三日間も何も食べれないということは、日本では考えられるだろうか？また、日本の神学教育の質の高さは世界に誇れるものがある。インドでは今、ダリットと呼ばれるカースト制度で最も低い不可触賤民が集団で改宗する運動が起きて教会開拓が爆発的な勢いで進んでおり、ここ5年間でOMインドだけでも二千の教会を開

拓した。その必要に迫られ、ほんの数ヶ月間だけの教育で牧師を養成しているという。日本において非常に高い水準の神学教育を受ける機会があるのとは大きな違いだ。

日本にはクリスチャンの数が少なく、国内の伝道だけで手一杯。とても宣教師を送り出すような力は無い…。これは本当だろうか？いつも引き合いに出す国はニュージーランド。「21世紀版オペレーション・ワールド」の統計によると、キリスト教国ニュージーランドが国外に送り出している宣教師数は1400人。それに対し日本が国外に送り出している宣教師数は218人となっている。ニュージーランドからの宣教師数が圧倒的に多いのは、キリスト教国だから当たり前と思うかもしれない。しかし人口400万人に過ぎないこの国の福音的なクリスチャンは人口の22%、すなわち88万人。日本は福音的クリスチャンは0.4%に過ぎないが、1億2千7百万人も人口があるため、クリスチャンの数は51万人となる。クリスチャン人口あたりの宣教師派遣数で考えると、日本の教会は今の4倍の数の宣教師を送り出す実力を持っているはずだ。最近OMニュージーランドの総主事と会う機会があったが、彼は最近の調査結果としてニュージーランドで教会に出席している人の割合が人口の5%（即ち20万人）にまで下がったことを嘆いていた。日本の教会出席者の割合は人口の0.2%（即ち25万人）と言われているから、ひょっとしたら日本のクリスチャンの数のほうが、ニュージーラ

(6ページに続く)

# 世界宣教大会報告

## JOMA世界宣教大会 in 久留米

タイトル：すべては宣教のために

日時：2006年3月12日(日)

14:00～16:00

会場：インマヌエル久留米教会

プログラム：

賛美

宣教報告(OM、ウィクリフ、インマヌエル)

宣教メッセージ(ルカ4:42,43「イエスキリストの心で生きる」)

分かち合いと祈りの時、席上献金

司会：岩上師

宣教報告：ブライス・マッケイ師(OM日本)

永井敏夫師(ウィクリフ聖書翻訳協会)

蔦田康毅師(インマヌエル総合伝道団)

出席：41名

### ☆ 地方での宣教大会 ☆

宣教大会の開催はどうしても都市部に集中しやすいと言われていますが、JOMAでは地方の教会のみなさんにも宣教のビジョンの共有をという願いを持ち、その機会が与えられることを祈っていました。昨年の初夏に福岡県にあるインマヌエル久留米キリスト教会とのコンタクトができ、相互に連絡をとりながら準備し、今春に集会が実現しました。このような集会が日本各地で開催されることをJOMA役員会は心から願っています。以下、参加者の方々の声をご紹介します。

### ☆ アンケート結果 ☆

- ◆世界の宣教と地域の宣教をみこころとして私でもできる事をさせていだきたい。
- ◆世界に目を向けて小さなことをさせていだきたいなと思いました。お祈りをし、具体的なことを神さまに聞いてさせていだきたい。
- ◆宣教のために自分のできることは何だろうかと考えながらメッセージを聞いた。置かれている所で、主のために自分にできることをさせていだきたいと思った。
- ◆前よりも海外宣教のことがもっと詳しく知ることができて自分の何か手伝うことができると言う事が分かり、参加できて良かったと思っています。
- ◆強い思いや祈りが少ないと感じながらの出席でしたが、今、心に深い感動を覚えております。グループに分かれての分かち合いが大変感謝でした。私たちが宣教師、宣教地のことを祈るだけでなく、私たちの教会の例えば特伝の祈りの要請など驚き

でした。(中略)インマヌエル教団の人材バンクがある事を知りました。蔦田師と親しくお話ができ大変感謝致します。これからの祈りが楽しみです。心を込めて祈らせていただきます。

◆聖書を必要としている方が、とても沢山いるんだなあと思った。少しでも宣教の働きに加わろうと思った。

◆CSでイエスさまを知ったのも42歳で救いにあずかったのも海外からの宣教師の働きでした。その一方、今、教会内で海外宣教をアピールされることに對し、「この教会の課題が多いのに。」と批判的でした。自己中心的な靈的求めを強く悔い改めるように示されています。

◆つつい視点の内向きになりがちですが、改めてみことばを通し、主の御思いを知らされ感謝致します。

◆自分でも働きに加わることがとても身近に分かって良かったです。(誕生日カードとか)

◆祈りの大切さを改めて覚えました。祈るためにより具体的な情報を得ることは不可欠で、今日は参加でき感謝でした。もっと祈って行きたいと思います。

◆午前、午後とイエスさまのお心と願いをお語りいただきありがとうございます。本当に何か私にさせていただけることはと問いかけをいただきました。

◆宣教団体の働きを具体的に聞く事ができて良かった。

◆海外で労されている宣教師の方々にお会いでき、祈りのリストでの祈りを具体的イメージを持って祈ることができることが感謝です。また自分たちの教会の伝道だけでなく海外の人々への宣教の応援を国内でもできる恵みを感謝します。これからもこういう企画を実施できたらと思います。

◆世界宣教に対して祈る必要性が実感できた。

◆クリスチャンとしては日の浅い、学びの浅い者ですが、自分の事だけや身の回りのことだけでなくもっと世界に目を向けて祈ることの必要性を知りました。自分のできることで世界中の宣教の働きのために何かをしたいと強く感じました。

(6ページに続く)



## 新規加盟団体紹介

### ミラノ宣教

ミラノ宣教支援会事務局  
岩崎建男(JECA 朝顔教会々員)

90年代の終わりにミラノ韓国賛美教会の礼拝に日本人の留学生が出席しました。イム・ユンサン牧師はミラノに日本語教会が無いことを知り、日本語による宣教を開始されました。礼拝の同時通訳、韓日讃美歌が用意され、日本語の群が交わりに加えられました。2001年には日本人留学生を中心に礼拝出席は10名を越えるようになりました。イム牧師は日本人の牧者の必要を覚え、ミラノに音楽留学中の内村まり子姉のご主人に献身を働きかけられました。当時、内村師は東京都立芸術高校の美術の教師をされておられました。

2001年10月にこのことを覚える祈祷会が始まり、内村師は献身の確認、同時に神学校での学びを始められ、そしてこの召しに従う決心をされました。2003年3月に都立高校の職を辞され、同年7月に所属教会の「シオンの群中野教会」(石川学牧師)の宣教師として按手を受けてミラノ賛美教会の日本語部の宣教師として遣わされました。出発に当たり、「ミラノ宣教を支える会」も発足しました。三ヵ月後、イタリアで唯一プロテスタントとして国から認められているバルド派の教会からの招聘状が発行され、海外宣教に必須である宗教ビザが、イタリアから初めて日本人に発給されました。

韓国賛美教会、イム牧師の物心両面の支援を受け、日本人宣教師によるミラノでの宣教が始まりました。受洗者も多く与えられミラノ賛美教会の日本語の群の礼拝出席者も20名を越えるようになりました。またイタリア各地への訪問、そして欧州各地の日本語教会・日本語集会での奉仕へと活動が広がられています。

ミラノ在留5,000人と言われる邦人への宣教を覚え、お祈り下さるようお願い致します。エレミア書33章2節、3節

<<http://www.mission-i.net/>>をどうぞ、ご覧下さい。



## 日本バプテスト教会連合

福井誠(世界宣教部担当理事)

日本バプテスト教会連合(以下連合)は、日本橋で宣教を開始した米国の宣教団、Baptist General conference(以下BGC)との協力により1984年に設立されました。その後和歌山を中心に国内開拓伝道が進められ、現在東京地区31、関西地区14、東海地区5、中紀・紀南地区9、総計59の教会による宣教活動が展開されています。

世界宣教への歩みは、1981年山見りつ子師をウイクリフ聖書翻訳の働きのためにフィリピンミンダナオ島へ派遣したことがきっかけとなりました。その後、馬上里佳子師(フィリピンセブ島:1989~1992年)、田原寿子師(フィリピンセブ島:1989~現在)、武田邦雄師(米国ロスアンゼルス:1991~1994年)、角田恵美子師(フィリピンセブ島:1993~1994年)、荒木恵師(フィリピンセブ島1997~2003年)と宣教師たちを送り出しています。

現在は山見師と田原師の二名が宣教活動を継続していますが、山見師は25年の長きにわたってカラガン語聖書翻訳の活動に従事し、出版の最終段階に至る努力を果らせています。また、田原師はフィリピンセブ市マンダウイ・バプテスト教会において、スクオッタエリアの子どもたちの救いと生活自立支援を目的とする組織を設立しディレクターを務め、さらに障害児教育を通して福音宣教活動を進めていく組織の立ち上げに携わっています。

また1995年よりBGC東部地区のNorth East Baptist Conferenceと宣教協約を交わし、ボストン日本語教会設立を目的としてBGCの開拓伝道者であるケン・ミルハウス師の働きを経済的にサポートしてきました。

2003年、BGCのエスニックミニストリーの働きの内日本人宣教の推進を目的としてデトロイト、デンバー、ロサンゼルス、ボストン各地日本人教会を開拓している牧師が集まり、Japan Mission Teamを設立、連合もこれに加わり、北米における日本人宣教のビジョンを育て参りたいと思っています。またBGCがかかわる22カ国の宣教フィールドへの協力派遣体制を築き、中国、インド、ベトナムなどへ、新たな伝道地に短期の技術宣教師を送り出すことができればと願っています。



## 宣教地体験旅行、宣教地訪問奉仕情報

JOMA加盟の各団体にアンケートを送って応答のあった、宣教地体験旅行、宣教地訪問奉仕の機会についてご紹介します。

### インマヌエル総合伝道団 世界宣教局

インマヌエル総合伝道団世界宣教局では、毎年一回宣教地に訪問団を送っています。現在、フィリピン、ケニア（3ステーション）、台湾、ボリビア、ハイチに宣教師が派遣されていますので、数年に一度各宣教地に送られることとなりますが、台湾の場合、距離も近く、随時に少人数の訪問団が送られています。今年、7月末、ケニアに6人の訪問団が送られます。今年の場合、医療宣教師が奉仕している病院での奉仕、また、神学校での奉仕も予定されています。訪問団の活動の内容は各宣教地で異なりますが、説教、証し、賛美、ペンキ塗りなどさまざまです。

宣教訪問団は、特に若い方々が宣教地を訪問し、奉仕をし、チャレンジが与えられるように願って始められました。実際には、若い方だけでなく、御年配の方も参加され、祝福を頂いており、若い方々の中から、神学校へ献身された方々も起こされています。「百聞は一見にしかず」ということわざのように、出版物やホームページで知ることのできない恵みが宣教地訪問にあります。いろいろな教会から参加され、訪問が終わってから多くの場合、証し集も出されています。

期間としては、一週間から、二週間程度です。宣教訪問団を迎えることは宣教師にとっても負担にありますが、参加される方々と現地の教会や神学校にとって祝福となるように願いながら、計画準備がなされています。来年2007年の訪問団について現在準備を進めています。

### 日本ウィクリフ聖書翻訳協会

#### ◇ 宣教地体験旅行

日本ウィクリフでは、10年以上前からフィリピンを中心として宣教地体験旅行を企画してきました。この他にバヌアツ、パプアニューギニア、ケニアへの旅行を実施してきましたが、今までに延べにすると200名以上の方々が参加してくれました。参加する理由としては、これからどう歩んでいったら良いか考えるために、自分に与えられている宣教の思いをはっきりとするために、祈っ



2006年8月バヌアツ

ている宣教師たちの現地での姿を知るためになど、さまざまです。神学生たちが研修旅行として参加したり、教会が参加者を積極的に受け止め、参加費の補助などを行っている例もあります。

※2007年3月にはフィリピンへの旅行が企画されています。

### OM日本

OM日本ではミャンマーで支援・援助活動をしている数箇所の貧しいクリスマス孤児院への訪問を年二回程度行なっている。毎月の日本からの支援献金



だけでなく、支援物資と子供集会を日本から持って行って、実際に孤児たちとふれ合うことは、孤児たちにとっても、また日本から行く人たちにとっても大きな祝福となっている。期間は一週間ほど。2006年は8月と、11月にも行なう予定。

宣教地体験旅行としてOMでは世界中で短期宣教プログラムを提供している。福音宣教船での数ヶ月の奉仕プログラムや、東南アジア、ヨーロッパ、中東での短期宣教プログラムなど。詳しくはホームページ（www.jp.om.org）を参照。世界各国のOMが現地で開催している短期宣教プログラムの他、教会の青年会など数名が集まれば、日本からのグループで独自の宣教地体験・訪問奉仕旅行も企画している。

# 世界の地域特集 1 西ヨーロッパ

## 「邦人伝道から異邦人宣教へ」

横山 基生 (在欧日本人宣教会 OMF インターナショナル日本委員会)

私は妻と共に、在欧日本人宣教会とOMFを通して過去10年間遣わされ、欧州、特に英国での邦人伝道に従事してきた。私達の働きは、直接的な海外邦人教会形成ではなく、地元クリスチャン・教会の日本人伝道の応援、日本人伝道に関わる働き人のネットワークの拡充・連携による宣教の拡大、帰国者フォローアップの拡充である。この経験から、欧州での邦人宣教の状況と可能性について述べたい。

英国では、留学生・在留異国人伝道が様々な形でなされている。その背景には、元植民地からの移民の多さ、近代海外宣教の父、ウィリアム・ケアリーを生んだプロテスタント信仰の霊的遺産が英国クリスチャンに豊かに受け継がれているからとも言える。日本人に特別な思いがある訳ではないが、隣人として友として愛をもって関わり福音を分かち合ってくれる地元クリスチャンが各地にいる。欧州全体がキリスト教文化の下にあるが、カトリック文化圏よりも、プロテスタント文化圏の方が、地元クリスチャンの伝道意欲は高い。カトリック文化圏では、プロテスタントはモルモン教やエホバの証人等の異端と同一視され、宣教師ビザを得られない場合が多い状況だ。北米や南米と比べ、移民として移り住んでいる人はほとんどいないので、日系人教会はない。国際結婚をした人等が長期滞在者であり、企業派遣や留学・研究で短期滞在している人が各地に日本語教会・集会の構成員だ。このため人の流れがとても速く、教会形成は難しい状況にある。このような中で、毎年開かれる「ヨーロッパ・キリスト者の集い」の働きはとても大きい。牧師のいない教会・集会、近くに何も集会がないという人達にとって、一年に

一度であるが、大勢のキリスト者と共に日本語で主を賛美し証しし合い、霊的に励ましを受けることのできる場となっている。



る。欧州で活動する日本人伝道に関わる働き人・信徒たちのネットワークの要にもなっている。後継者、青年伝道への働き人、欧州全体を巡回し励ます人等が求められている。

在外邦人伝道に関わる中で、この働きは単なる邦人伝道に終わらずに、異邦人宣教に発展することを示された。英国人クリスチャンが言うに、同国人に対して福音を語るよりも、異国人に語り易いことや、未信の英国人は外国人クリスチャンと霊的なことを素直に話せる事実から、一般的に異文化コミュニケーションでは、様々な垣根が自然とはずれ、霊的なことに話を進め易いようだ。在外邦人クリスチャンが異邦人宣教に整えられるならば、世界宣教に大いに貢献できる可能性を持っていることが分かる。この可能性を具体化するためには、遣わされた地で主の弟子として豊かに歩むために、様々な支援体制をさらに強化することが必要である。帰国者がその経験と恵みを日本各地の教会に還元できる時、主の世界宣教の業が、草の根的に豊かに発展するであろう。邦人伝道から異邦人伝道への展開のこの流れの中で、JOMAの協力体制の力が大いに発揮されることを期待している。



JOMA通信では特集を組み、世界各地における宣教の状況と必要を順次お伝えします。第一回は西ヨーロッパです。もちろん西ヨーロッパといっても多くの異なる状況の国々があり、様々な宣教の働きがなされていますが、その一端でもお伝えし、祈りに覚えていただければ幸いです。次回は東ヨーロッパの予定。記事を募集いたしますので、東欧における宣教の情報をお持ちでしたらぜひ事務局までお寄せ下さい。

(1 ページから続く)

ンドのクリスチャンの数より多いかもしれないのだ。

もちろんこのように一つの統計の数字だけとり上げて単純に比較することは少々乱暴かもしれないが、日本の教会は今よりもっと多くの宣教師・宣教士を国外へ派遣し、世界宣教において大いに貢献すべき実力と責任を持っているはずだ。

日本の教界では伝統的に、牧師・教職者から宣教師へ召されていく…という考えが強いようだ。しかし、実際の宣教の現場では、宣教士から牧師・教職者へと召されていく人が多い。日本においても、このようにトレンドを変えていくことは、世界大のビジョンを持った牧師・教職者を輩出する鍵となるだろう。実際OMでは過去50年間の宣教の歴史の中で、何らミニストリー経験や神学教育の無い、しかし宣教のビジョンを持った数万人の若者を受け入れ、宣教地における数年間の実践的な宣教訓練を与え、その中で神からの召しを受け、ある者は長期宣教師となり、ある者は母国における伝道の重荷を与えられ聖書学校・神学校へ進み、現在牧師・教職者となっている者が世界中に多くいる。日本においても、こうした形で将来の日本の教会を担っていく世界大のビジョンを持つ牧師が輩出されることを祈っている。

(2 ページから続く)

◆今日の宣教大会で数名の宣教師にお会いでき、海外宣教に関するお話を伺うことができ、大変うれしかったです。クリスチャンとして果たすべき務めについて良く分かりました。特に薦田牧師に会い、中国語で交わることができたことは、海外に住む中国人の私でも寂しく感じませんでした。神さまがこんな私を愛しておられること、そのみ力がどんなに素晴らしいかを感じる事ができました。

◆先生方のご奉仕を心より感謝申し上げます。もう一度主からの宣教のチャレンジを受けさせてくださいました。心も癒されました。ありがとうございました。個人としても教会としても「どうしても」という思いで宣教の重荷を担っていくクリスチャン。教会にならせていただきたいと祈り、願わされます。祈り願っていた他教会の参加がなくて残念でしたが、これもチャレンジとして受け止めさせていただき、祈り、取り組んでいきたいです。また宣教の集会を九州で持って頂きたい。

## 2006 年度役員紹介



- 会 長：池原三善 (基督兄弟団)  
副 会 長：横山基生 (OMFインターナショナル日本委員会)  
書 記：梅田昇 (インマヌエル総合伝道団 世界宣教局)  
会 計：酒井信也 (OM日本)  
JEA 担当：永井敏夫 (日本ウィクリフ聖書翻訳協会)  
オブザーバー：具志堅聖 (JEA)

写真後列左から：梅田、永井、坂庭 (事務局)、具志堅  
写真前列左から：横山、池原、酒井

発 行：海外宣教連絡協力会  
発 行 者：池原 三善  
住 所：〒244-0842  
横浜市栄区飯島町 2441-10  
Tel.045-891-7769  
Fax.045-894-2121  
e-mail: jomaoffice@yahoo.co.jp  
郵便振替：海外宣教連絡協力会  
00160-7-106631